

映画が結ぶ日韓交流

福岡から6作品

釜山の短編祭開幕

【釜山・内門博】韓国内外の若い映像作家を発掘する「釜山国際短編映画祭」(BISFF)が

初出品され、「福岡発」の自主制作映画が上映される。

BISFFは、毎年秋

12日、釜山市で開幕した。昨年の福岡―釜山友情年を機に、今年は同映画祭と姉妹映画祭の覚書を締結した「福岡インディペンデント映画祭」(FIDFF)から6作品が特別招待プログラムとして

に開催の「釜山国際映画祭」より歴史は古く、昨年まで「アジア短編映画祭」として開かれてきた。今年30回目を迎えるに当たり名称を変更、アジア圏以外からも作品を募った。一方、FIDFFは

福岡県内の自主制作・実験映画団体の交流と活性化を目的に、「アジアフォーカス・福岡国際映画祭」の協賛企画として昨年スタート。釜山との友情年だったことから覚書を結び、釜山側の作品を特集上映した。

6作品は、福岡市内の映像系専門学校生徒が作った卒業作品や、九州大学の留学生在が共同制作したアニメーションなど。このうち、福岡県行橋市の映像作家、橘剛史さん(22)の作品「Candy of the Youth」は開幕式で公開された。橘さんは「大舞台で上映されてうれしい」と喜んでいった。西谷郁



開幕式で笑顔でレッドカーペット上を歩く西谷郁さん(右端)と橘剛史さん(右から2番目)

と喜んでいった。西谷郁